

大分県大分市中心市街地における公共空間の利活用傾向

— 地方都市の中心市街地における公共空間の利活用の実態に関する研究 その1 —

正会員 ○霧 梨佳*

同 姫野 由香**

同 指方 綾乃*

地方都市 公共空間 空間特性
官民連携 管理形態 利活用

1 研究の背景と目的

近年、都市の魅力を高めて、賑わいを創出するために、道路を開放したオープンカフェやイベント等、地域資源である公共空間の活用に注目が集まっている。このようなまちづくりを支える仕組みとして、公共空間の利活用を促す制度や新しい運営手法が議論されている¹⁾。それに伴い、公共空間の利活用の自由度を拡張する規制緩和の動向が確認できる²⁾。これにより、今後、資金面や管理運営面において、官民が連携しながら公共空間を活用した地域づくりが拡大していくと考えられる³⁾。

一方、人口減少に伴い、税収の減少が危惧される地方都市においては、新たな公共空間を整備するだけでなく、既存の公共空間を有効活用することが求められている⁴⁾。大分市中心市街地の都市空間では、平成20年頃から、公共空間の整備^{注1)}が実施され、その様相が大きく変化した^{注2)}。

そこで、本研究では、大分市中心市街地に立地する公共空間^{注3)}を対象(図1)に利活用^{注4)}の傾向と官民連携による利活用事例の運営の実態を把握する。これにより、大分市

中心市街地の公共空間の管理・利活用を行っている主体の運営に有益な知見を得られると考える。

本稿その1では、空間特性と利活用用途、管理形態と利活用を行う主体の傾向を分析することで、大分市中心市街地の公共空間における利活用の実態を明らかにすることを目的とする。

2 研究の方法

本稿その1では、公共空間で実施されている利活用事例を収集^{注5)}し、表1に示す5つの用途に分類した。そして、公共空間の特性を形状

表1 利活用用途の分類

利活用用途	定義
鑑賞型イベント	主催側が披露する演出を鑑賞するイベント 例) ライブ、パフォーマンス
飲食型イベント	屋台等その場で作り、飲食物の販売を行うイベント 例) 肉祭り
物販型イベント	雑貨や食品等の販売を行うイベント 例) バザー、マルシェ、祭りの縁日、ワゴンセール
参加型イベント	一般客の能動的な参加によるイベント 例) ワークショップ、セミナー、じゃんけん大会
展示型イベント	作品や商品等を陳列し、展示するイベント 例) 作品展

及び周辺建物との関係性の視点から分類し、公共空間の利活用の傾向を分析する。さらに、公共空間を管理主体によって分類し、利活用を行う主体との関係性を分析する。

3 空間特性からみる公共空間利活用の傾向

3.1 空間特性の分類

公共空間の敷地面積の縦横比により、各公共空間の形状を分類した(図2)。最も多い縦横比率9.8%を基準に、縦横比率

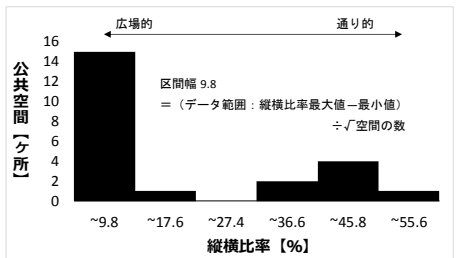


図2 縦横比ヒストグラム

9.8%以下の公共空間を「広場的」、9.8%より大きい公共空間を「通りの」と定義した⁵⁾。次に、公共空間が屋根・庇等の有無により、「半屋外空間」「屋外空間」に区分した。以上より、公共空間をA~Dの4つのタイプに分類した(表2)。

3.2 空間特性と利活用用途の傾向

利活用実施件数をみると、【タイプA】は93回と最多であり、次いで【タイプB】が67回である。両者とも半屋外空間であり、利活用頻度が高い。これは、【タイプA】【タイプB】共に屋根が設置されているため、気候に関わらずイベント開催ができることが要因と考えられる。

【タイプA】では、「鑑賞型イベント」が49回、「参加型イベント」が35回と、他のタイプと比較して、最も多く利活用が行われている。ハード設備^{注6)}の設置において、気候右されず、十分なスペースが必要であるため、半屋外の

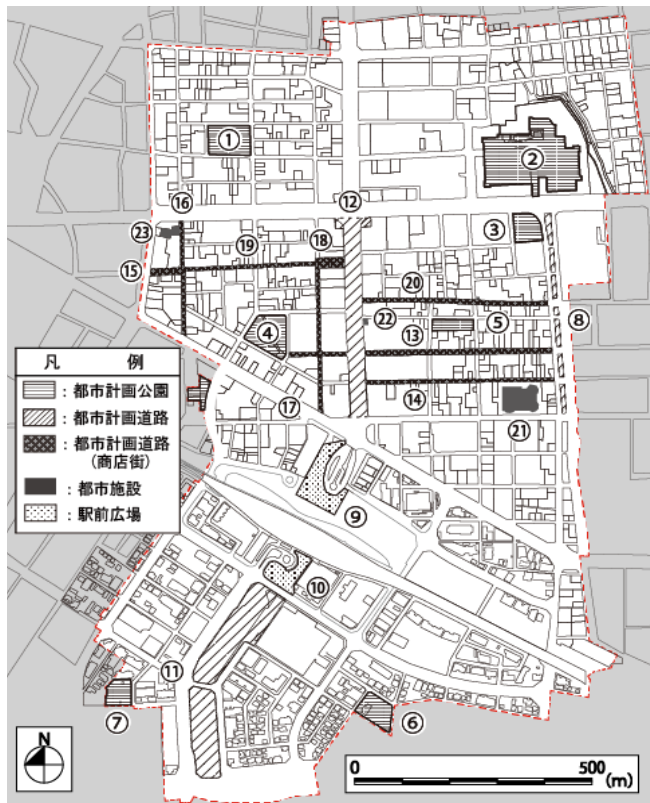


図1 大分市中心市街地の公共空間の分布

表2 空間特性と利活用用途の関係

空間特性	タイプA 半屋外の広場の空間	タイプB 半屋外の通りの空間	タイプC 屋外の広場の空間	タイプD 屋外の通りの空間
公共空間(ヶ所)	4ヶ所	2ヶ所	11ヶ所	5ヶ所
空間形状のイメージ図				
利活用用途別実施件数(件)				
利活用実施件数(件)	93件	67件	29件	25件

表3 管理主体と利活用を行う主体の団体種別の関係

管理形態		タイプa 行政による管理	タイプb 官民連携による管理	タイプc 民間による管理
公共空間 (ヶ所)	空間特性	タイプA 0	タイプb 2	タイプc 2
		タイプB 0	0	2
		タイプC 8	1	3
		タイプD 2	0	3
主催の団体種別別の実施割合(%)	行政			
	行政関係機関	4%	4%	2%
	任意団体(行政・民間)	11%	21%	8%
	任意団体(民間)	27%	9%	5%
	民間企業	54%	21%	80%
実施件数		26件	43件	144件
1ヶ所あたりの実施件数		2.6件	14.3件	14.4件

広場的空間で利活用傾向が高いと考えられる。

【タイプB】では、「物販型イベント」が40回と他のタイプと比較して、最も多く実施されている。一方、【タイプC】は、利活用用途の偏りが比較的小さい。【タイプB】の空間は、店舗が立ち並び、建物が隣接しているが、【タイプC】の空間は、複数の道路に面しており、建物が隣接していないことから、周辺建物の有無が、イベント内容に影響を与えていると考えられる。

4 管理形態からみる公共空間利活用の傾向

4.1 管理形態の分類

公共空間の管理主体の団体種別により、各公共空間の管理形態を行政・民間・官民連携の3つに分類した(表3)。

4.2 管理主体と実施主体との関係と利活用の傾向

1ヶ所あたりの利活用実施件数を見ると、民間が管理する空間と官民が管理する空間では約14件であり、行政が管理する空間では、2.6件である。これより、民間が管理に関わる空間は、利活用が多く行われていることが分かる。

利活用を行う主体の団体種別をみると、民間が管理する空間では、民間による利活用が82%、官民が管理する空間では、民間による利活用が61%である。これより、民間が管理に関わる空間は、民間による利活用が多い傾向にあることが分かる。一方、行政が管理する空間では、任意団体(行政・民間)による利活用が54%と最も多い。

以上より、民間が管理に関わることは、民間による利活用の促進に好影響であることがわかる。

他方、行政が管理する空間では、利活用頻度は低いが、行政と民間が共に利活用を行っていることから、民間の手を借りながらも、利活用を図ろうとしていることも推察できる。

5 総括

本稿その1では、大分市中心市街地に立地する公共空間の利活用実態を明らかにした。

空間特性と空間利活用用途の関係をみると、半屋外空間では、利活用頻度が高いことから、屋根・庇がある空間では、気候に関わらずイベントを実施することが可能であるため、利活用が行われやすいと考えられる。建物が隣接する空間では「物販型イベント」が多く実施されており、建物が隣接しない空間では、利活用用途の偏りが比較的小さい。これより、周辺建物の有無がイベント内容に影響を与えていると考えられる。

管理主体と利活用を行う主体の関係をみると、民間が管理に関わる空間では、民間が利活用を多く行う傾向にある。これより、民間が管理に関わることは、民間による利活用の促進に好影響であることがわかる。行政が管理する空間では、民間と連携して利活用を行っているが、利活用頻度は低い。以上より、民間が公共空間の管理に参入することにより、公共空間の利活用促進を図ることが可能になると考えられる。

【補註】

- 注1) セントポルタ中央町アーケード新設事業等の空間構成要素を増設している事業のこを指す。
- 注2) 特に第一期・第二期中心市街地活性化基本計画内の「大分県土地区画整理事業」「大分県市立体交差事業」、第二期計画内の「大分県北口駅前広場整備事業」「JR大分ビル整備事業」のJR大分駅を中心とする事業による都市空間の変化を指す。
- 注3) 本研究の「公共空間」の定義は、市所有の都市計画公園及び駅前広場等、歩行者に開放された公共性の高い空間とする。さらに、まちなかの賑わい創出に寄与する商店街や通りも、都市アメニティに資する公共性の高い空間として加えた。
- 注4) 本研究の「利活用」の定義は、イベント開催やにぎわい形成等、仮設的な空間活用により、空間の価値を高める取り組みとする。
- 注5) 2016年1月から2017年12月に実施されたイベントを収集した。
- 注6) 「ハード設備」とは、ステージやテント、音響設備等イベントに必要な設備に限らず、椅子・机等の家具も含む。

【参考文献】

- 1) 日本都市計画学会「都市計画 特集：使われる公共空間」, 都市計画, Vol. 64 No. 5, 2015.10
- 2) 公募設置管理許可制度(Park-PPF) (2017年) 等である。
- 3) 今後の共助による地域づくりのあり方検討会「今後の共助による地域づくりのあり方検討会とりまとめ」, 平成30年3月
- 4) 柴田久「地方都市を公共空間から再生する 日常のにぎわいをうむデザインとマネジメント」, 2017
- 5) 吉田弥生, 姫野由香「公共空間の形態や心象評価の関係に関する研究」大分大学工学部福祉環境工学科建築コース卒業論文, 2016.3

* 大分大学大学院工学研究科博士前期課程

** 大分大学福祉環境工学科・助教 博士(工学)

* Graduate Student, Oita University

** Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Oita University, Dr. Eng